

山城



夢中になってビニール傘に色をつける園児

(京田辺市山手東・松井ヶ丘保育園)

ビニール傘 カラフルな夢 京田辺



同女大生企画 園児描き、きょうから展示

京田辺市山手東の松井ヶ丘保育園の園児54人が、ビニール傘に思い思いに筆を走らせ、カラフルな傘を制作した。近くの商業施設「ブランチ松井山手」で6日

から展示される。同志社女子大(同市興戸)の学生3人が授業の一環で立ち上げた仮の会社「sanka ku」が企画した。新型コロナウイルス禍で、関わりをつくる狙いで、保育園が地域との交流ができない状況に踏まえ、園児が傘に絵を描き、展示を見た地域住民は、メッセージを園児に送ること

茶話

強い日差しのもと、手作業で斜面を崩していくと骨が見えた。粉碎しないよう丁寧に土をかき分ける。鼻をつくような強いにおいがした。8年前、沖縄戦の遺骨収集ボランティアに参加した時のことだ。

骨と一緒に、鉄かぶとや銃剣、「田畑」と書かれたはんこも見つかった。うつぶせで地下足袋を履いていたことから、足音がしないよう軍靴から履き替え、米軍に切り込みに行く直前の日本軍兵と推測できた。

太平洋戦争時、沖縄では地上戦が繰り広げられ、犠牲になった日本軍や住民の遺骨はそのまま野ざらしとなり、国によ

今も見つかる遺骨

る遺骨収集はされてこなかった。その遺骨が、76年たった今も沖縄の至る所で見つかっている。8年前に見た遺骨は1年後、DNA鑑定を通じて東京都に住む遺族の元へ戻った。電話口で聞いた70代の息子の声忘れられない。「まさか、おやじが帰ってくるなんて思っていなかった。こんなにもうれしいことはない」

今年になって、沖縄戦戦没者の遺骨が混じった土砂を埋め立てに使用しないよう求める意見書が全国自治体の議会で可決された。誰にも見つけられず、ひとりぼっちの遺骨が今も残る。何ができるかを考えたい。(阪口彩子)



日本軍兵士の遺骨に手を合わせるボランティアの人たち(2013年、沖縄県)

園児たちは「次はピンクを塗る」「きれいでできた」と言いながら、色を何度も塗り重ねたり、カメや顔の絵を塗り重ねたりして描いたりした。傘をた。社長を務める岸史花さん(20)は「コロナ禍での子どもと地域のつながりを考え、この企画になった。すごく楽しんでくれました」と話した。園児が制作したカラフルな約60本の傘は14日まで展示される。(有賀光太)

まじめな質屋

金・プラチナ 高価買取!

京阪くずは駅前 (有)橋本質店

072(856)1234

南部支社

〒613-0033 久御山町林高黒1-8

代表 0774(45)1212 FAX 0774(45)1214

nanbu@mb.kyoto-np.co.jp

京田辺・学研総局

〒610-0334 京田辺市田辺中央1-1-5 BITダイエビル3F

代表 0774(63)7433 FAX 0774(68)1414

kyotanab@mb.kyoto-np.co.jp